

「クラウドによる2030年の未来」 に向けたITのあり方

～新しい価値が次々と生まれる社会の実現に向けて～

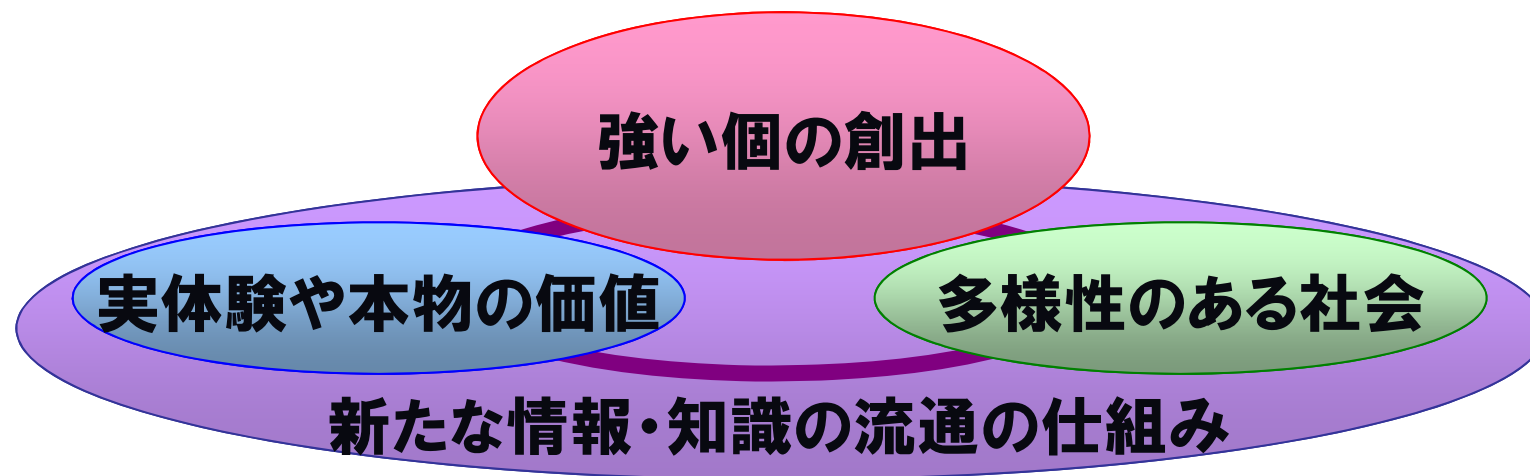
ソリューションサービス事業委員会 副委員長
次世代IT利活用検討専門委員会 委員長

日本ユニシス株式会社 小林千早都

Chisato.Kobayashi@unisys.co.jp
twitter:officekoba

1.【2010年度の活動より】

1.1 2030年の未来における4つのキーワード



2030年の未来では、「強い個の創出」を中心として、「実体験や本物の価値」、
「多様性のある社会」という3つの考え方・価値観が重要なポイントとなる。
また、それらを支える環境として「新たな情報・知識の流通の仕組み」が必要となる。

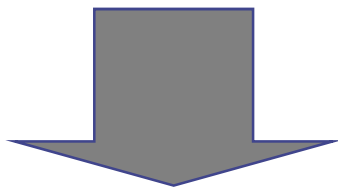
1.2 未来のシナリオの場面及び課題についてキーワードによる整理

	これまで	未来
「強い個の創出」	個人や組織の仕事や活動に関して、責任があいまいとなることも多く、個人や組織に求められる実績も不明確なこともあった 個人や組織が活動する際には、社会慣行、従来のやり方・考え方に従って活動することが多かった 活動の場は国内、かつ限られた地域内であることが多かった	個人や組織の仕事や活動に対して、果たすべき責任が明確になり、従来以上に多くの実績が求められるようになる 個人や組織のやり方、考え、好みに応じて活動が可能となり、個人や組織ごとに自身の考えに従いやり方を選択できるようになる 国内のみならず国外にも活動の場が広がる
「実体験や本物の価値」	文字情報を中心とした知識等へのアクセスが中心であった 文字として明文化できる形式知が主として扱われてきた 地域コミュニティ等、人と人との出会いから生まれる活動は、限られた人々にとどまっていた	ITだけでは得ることの出来ない実体験や本物へのアクセスに価値が従来以上に見出されるようになる 体験を通じて得られる暗黙的な知見の習得に重きが置かれるようになる 地域のコミュニティ等を通じた、リアルな人と人とのつながりが重視されるようになる
「多様性のある社会」	社会として、ひとつのあるべき価値観が共有される傾向があった 社会として、一律に守るべきルールややり方等が定められる傾向があった	最低限の主体性や責任は求められるが、様々な価値観が社会としては許容される 社会的な制度や仕組みに関しても、ある程度のバランス感が求められるようになる
「新たな情報・知識の流通の仕組み」	情報の中身ではなく、情報を準備することや、情報の形式に重点が置かれていた 情報公開のあり方や、知的財産の保護のあり方について、必ずしも社会として共通認識はなかった	情報の中身や、情報の流れが生み出す情報のバリューチェーン、ライフサイクルが重視されるようになる 所有する情報の公開・非公開のあり方、知的財産の保護のあり方について社会の中で共通認識ができるようになる

2.【2011年度の活動状況】

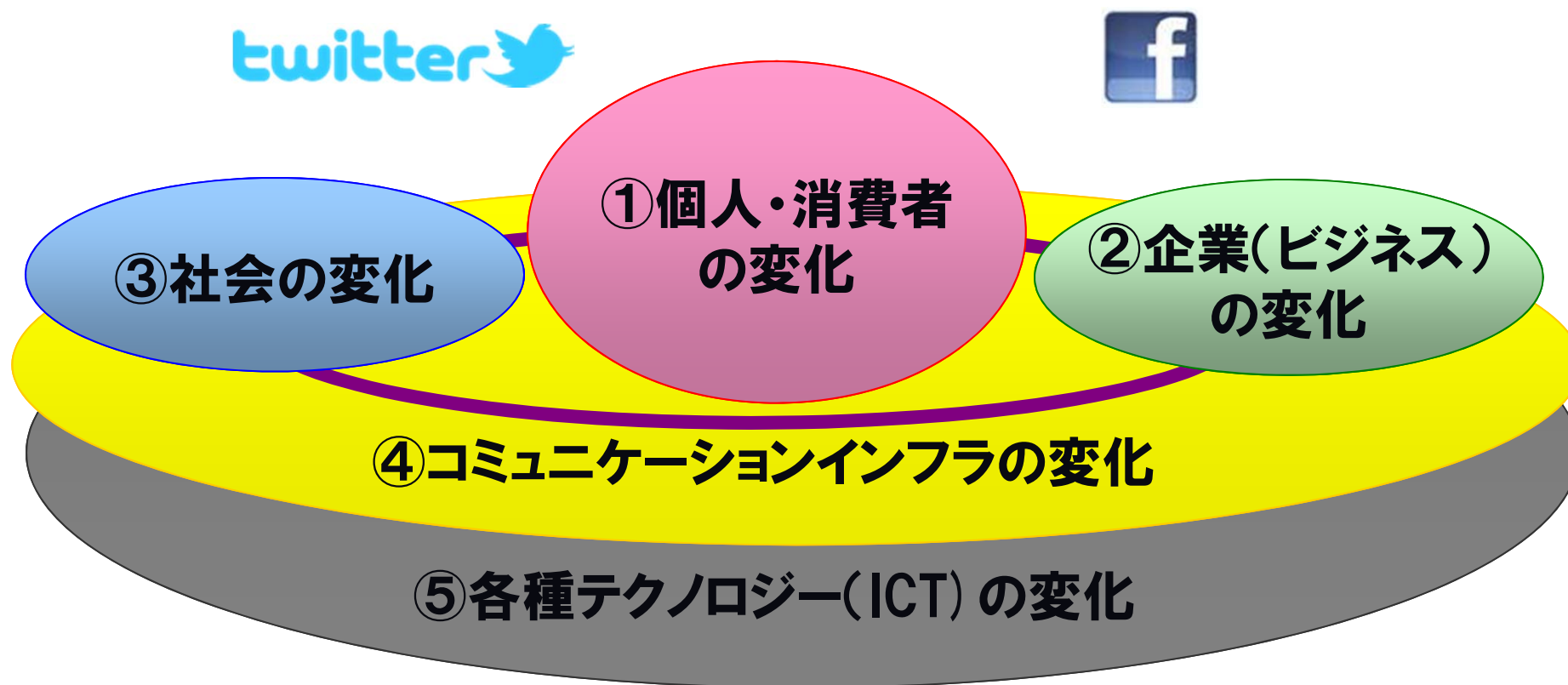
2.1 今年度活動概要

- ◆ 2010年度の結果を踏まえ、
もう少しITの利用分野を広げるべく、
内容を掘り下げてみることに・・・



- ◆ 2011年度「次世代IT 利活用検討専門委員会」活動概要
クラウドによる近未来の社会や生活の変化に溶け込んでくるIT 要素について調査研究し、クラウド時代の理想的な社会の実現に向けて、人文科学、社会科学、社会行動学等の観点から分析、提言する。

2.2 分析の視点



※ICTの知識を踏まえつつ、①～⑤の各視点で分析を行う

2.3 分析のキーワード

①個人・消費者の変化

絆の再生

スPEND・シフト

②企業の変化(ビジネスのあり方)

FREE

共創

CSR→CSV

貢献力の経営

③社会の変化

SHARE

After3. 11

④コミュニケーションインフラの変化

ソーシャルメディア

⑤テクノロジーの変化

CPU

ネットワーク

モバイル

クラウド

大量データ

2.4 ソーシャルメディアの効用

- 「リアルなつながりを補完する、深める」
- 「友達の友達はみんな友達」
- 「思わぬつながりが作れる」
- 「人やコトのつながりが可視化できる」
-
-
-

2.5 仮説:ソーシャルメディアの将来予想(理想形)

プロセス

多様な電子の場が生まれる



場がコミュニティを形成する
(リアル・バーチャル問わず、人・思いの集合体)



コミュニティ内でのコミュニケーションから新しい価値が生まれる
(ビジネス、モノ、コト・・・)

ヒューマンセントリック

階層型の社会構造が、
ネットワーク型、アメーバ型構造へ

市中のデータをみんなの叡智に転換

課題

いかに多くの参加者の知恵を集め集合知を生み出すかがキー



クローズドはありえない、クローズドにならないような仕掛けが必要?



ソーシャルメディアをプラットフォーム化する社会的枠組みを議論する必要あり?
(企業の枠、地域の枠を超えるもの・・・)

オープン共創

目指すべき社会

「新しい価値が次々と生まれる社会」

2.6 ソーシャルメディアを活用した価値創造の例:ビジネスパーク・リアルコミュニティ



ご清聴いただきありがとうございました。

**当資料は、JEITAホームページ等から
ダウンロードできるようにいたします。**



数日内に、

twitter:officekoba

にてお知らせします。